

福岡

心肺蘇生法:中学生学ぶ 九国大付属の新1年生 / 福岡

八幡東区枝光の九国大付属中学校で18日、新1年生38人全員が心肺蘇生法を習った。人体そっくりの人形での訓練に全員が真剣な表情。八山廣校長(58)は「初めての試みですが、生徒たちの吸収力はとてもいい。毎年実施していきたい」と話していた。

講師は47都道府県の出資で設立された救急振興財団の救急救命九州研修所(八幡西区大浦)から招いた郡山一明教授(50)。生徒は4人1組で要救護者の発見から容体確認、応援依頼、人工呼吸、胸骨圧迫、さらに電気ショックで心臓の動きを正常に戻すAED(自動体外式除細動器)の正しい使い方までを体験した。

両手で胸骨圧迫を練習した友成龍一君(12) = 小倉北区 = は「力が思ったより必要だった。少し分かった気がします」と話していた。【村山文作】

(北九州版)

【関連記事】

[AED:電源、寿命間近 バッテリー交換呼び掛け - - 厚労省](#)